

項目	概要
日時	2023年12月19日(月) 13:00~15:00
場所	Web会議によるオンライン開催 (Zoom)
議事次第	(1)開会 中尾彰宏 国際委員会委員長ご挨拶 (2)ITU 次期電気通信標準化局長就任に向けた抱負や所属会員の皆様へのメッセージ (日本電信電話株式会社 CSSO 尾上誠蔵氏) (3)IOWN のユースケースと現状、万博へのご展望 (日本電信電話株式会社 研究企画部門 IOWN 推進室室長 川島正久氏) (4)技術分科会下期活動方針について (5)事務局よりお知らせ (6)閉会 中尾彰宏 国際委員会委員長ご挨拶
参加者数	約 145 名

以下が議事要旨となる。

(1)開会 中尾彰宏 国際委員会委員長ご挨拶

- あっという間に時間が過ぎていっており、当コンソーシアムも2年が経過しようとしている。本日も目的に沿ったプレゼンテーションをして頂く予定だが、改めてミッションを振り返ると、大きく2つあり、1つは国際動向ならびに強いパートナーを把握して、他国との強いパートナーシップを推進していくこと。もうひとつは我々からの情報発信とともに、海外の組織・機関からも情報共有をいただく双方向のコミュニケーションを実施していくこと。これらを今後も推進していく。
- 2年連続で国際カンファレンスを実施したが、キャリア4社のCEOの登壇などは他国ではなかなかできないことであり、日本でも活発に活動が進んでいることの評価を頂いている。
- 本日は尾上さん、川島さんにご登壇をいただく。日本のグローバルな活動の先端としてお話を頂くので、是非会員の皆様にも質疑応答含めご参加をいただきたい。

(2)ITU 次期電気通信標準化局長就任に向けた抱負や所属会員の皆様へのメッセージ報告について発表が行われた。

(3)IOWN のユースケースと現状、万博へのご展望について発表が行われた。

議事(2)および(3)に関して質疑応答が行われた。内容は以下の通りとなる。

- 偶数の通信規格世代大成功の法則について非常に同意するとこと、次の6Gに向けた5Gの取組が大事である認識だが、尾上様はいかがお考えか。
  - 5Gも成功としてもらいたくこのようなことを申し上げていた。5Gは現状を鑑みると、まずまずの成功といえる。そこは6Gに必ず繋がっていくの

で、6Gの大成功に結び付けて頂きたい。とはいえ5Gをあきらめているわけではなく、現世代の成功の上に大成功があるものと考えている。(尾上氏)

- Techリーダーの先進国に求められている取組は何と考えるか。
  - 国際カンファレンスでも途上国、先進国におけるTechの状況について話をしたが、背景としては途上国の方々ももっと標準規格などを作ることに参画していきたいとの声を聴いていたため、その意欲に対して応えたいということを用意している。先進国およびその企業に対しては、技術を前に進めることだけでなく、技術が普及が広がれば広がるほど先進国およびその企業にも利益があると理解頂いて好循環を作っていただきたい。具体的なやり方は課題も多く、ITUの内部でも主張が分かれるところになっている。とはいえ先進国およびその企業がリーディングする立場である、ということには変わらないため、その点への取組について期待している。(尾上氏)
- カーボンニュートラル、気候変動などの問題が生じているが、ITUではこれらについて何か取組をしている、またはすることを予定されているか。
  - ITUとしても国連SDGsのゴールに貢献することはミッションになっている。内部的にはかなり高い意識をもってこの問題に臨んでいる。今回の選挙活動を通じて、島国の人々などから、気候変動への危機感・警鐘を多く聞いており、改めてこの問題の重要性を認識しているところ。オール光ネットワークなどで消費電力が下げられれば環境負荷も下げていけるため、そうした技術発展による貢献を期待している。途上国でもDX化に大きな期待を持っているので、ITUとしても課題解決に向けて向き合っていければと考えている。(尾上氏)
- エンドtoエンドの議論が重要であろうということを再認識したところであるが、途上国における古いシステムをいかにして次世代規格・アーキテクチャに置き換えていくかということが気になっている。
  - ITU-Rのほうは3Gのころからの枠組みがしっかりできているのに対して、ITU-Tはまだ改善余地があると感じている。産業界全体が関わって、上手く情報が流れるようにしていきたい。ITU-TにおけるResolution-92においてもIMTのnon-radio partをITU-Tでしっかりやるとも記載があるので、しっかりと取り組んでいく。マイグレーションに関する議論は日々行っており、統合的にこれをやればよい、という一律の回答がないので、個々に対応しかざるをえない。ただし、頻繁にアーキテクチャを変えるのは良いことばかりではない。一辺倒には考えず、今後も議論を深めていきたい。(尾上氏)
- IOWNにおけるAPNに関連して、グローバルなパートナーシップ・連携という観点での国際的な提携戦略の活動として、共有可能な内容があれば教えて頂きた

い。

- APIに関するグローバルな動きとして、Open ROADM という団体があり、AT&T が立ち上げている。ここと IOWN は良い関係を築いており、APN の定義や実装について議論を行っている。またそれとは別にデータセンターのネットワーキングの世界だと、Meta が設立した Telecom Infrastructure Project がある。これら 2 組織が頼りになる組織。それに加えてモバイルの世界は MOPA という団体が立ち上がっている。光のフロントホール用の規格などをしっかりと決めていこうとしている。こちらにも IOWN から様々プレゼンを行っている。このような組織とのコミュニケーションを日々行っている。(川島氏)
- 諸外国と比べユースケース作りが日本は脆弱と感じている。お考えを聞かせていただきたい。
  - 例えばドコモメックなどは一生懸命やっている。そのほかにも様々なソリューション事例が出てきていると認識している。印象はさておき、実態としては色々出てきている。とはいえまだ 1 年 2 年の時間経過としては受動的に情報が入ってくるような状態ではないというのは同意する。(川島氏)

(4) 技術分科会下期活動方針について発表が行われた。

(5) 今後の会合について発表が行われた。

(6) 閉会 中尾彰宏 国際委員会委員長ご挨拶

- 本日は貴重な講演も頂けて、質疑応答も活発に実施頂けたことに御礼申し上げます。今後もこのように様々な取組を進めていきたいと考えている。中々全てのご要望に応えきれはないが、出来る限り国際委員会の活動を推進していきたいと考えている。

以上